

2006ITUワールドカップ北京大会 忽那静香がランで頑張って13位に

バイクまで先行した田山寛豪が惜しくも21位

9月24日(日)、中国・北京で、2006ITUワールドカップが行われた。この大会は、2年後に控えた北京オリンピックのプレ大会として行われ、世界各国から有力選手が集まった。

午前9時30分スタートの女子は、古谷あかね(トヨタ車体)と忽那静香(日東紅茶・TEAM KEN'S・A&A)がいい位置でスイムを終えてバイクに。バイクでは大集団となった第1集団で忽那、古谷が戦い、第2集団に大きく差をつけてランへと移った。ランでは、好調のパネッサ・フェルナンデス(ポルトガル)が中盤から首位に立って逃げ切り、そのまま優勝した。2位はエマ・スノーシル(オーストラリア)、3位はエリザベス・メイ(ルクセンブルグ)が入った。忽那は、ランでも堅実に走り、13位となった。

午後12時30分スタートの男子は、田山寛豪(チームテイケイ)がスイムから上位につけ、バイクを第1集団に。山本淳一(K's-Y・グリーンタワー・稲毛インターITC)と山本良介(トヨタ車体)は第2集団に。逃げる第1集団は、第2集団と差をつけてランへ。ランでの飛び出しは9位と、上位入賞を感じさせた田山だったが、その後後退。結局、熾烈なトップ争いを制したのは、フレデリック・ブローブル(フランス)。一時はブローブルに先行したチャベール・ゴメス(スペイン)は2位となり、3位にはステファン・プーラ(フランス)が入る結果となった。

貯金を使い果たした感じ、と言うが次に期待



「はじめての北京大会だったので、気持ちは入っていた」という田山だが、「世界選手権からの連戦で、貯金を使い果たしたという感じ」とも。スイム、バイクで先行して、上位陣に食らいついていく、という戦い方が定着しているの、次に期待。



北京郊外のダム湖が舞台となった

忽那の得意のパターンに持ち込み、あと一步で上位入賞



「スイムでいい位置につけて、バイクでは第2集団が差を縮められなかったのがよかった」と、忽那は言った。この日のスイムはウェットスーツ着用禁止となり、これがまず忽那にとって追い風となった。さらに、第1集団にバイクに強い選手が多く、ランに強い選手がいる第2集団との差を縮められなかったのもプラスとなった。忽那は、「思ったよりバイクがきつくて、ランもやっと走っている状態」と言ったが、フィニッシュまでペースを崩すことなく走りきった。もう少し頑張れば一桁入賞も望めただけに惜しいと言える。

NTT 東日本

NTT 西日本

Kyorin

JAL

ORINO

weider

asics

Kodak

SHU

TAIHEI

CASIO

resort trust

JCB

LEOPALACE RESORT

日産自動車

Gakken

文化総合研究所
BUNKA SOUSO KENKYUSHO